

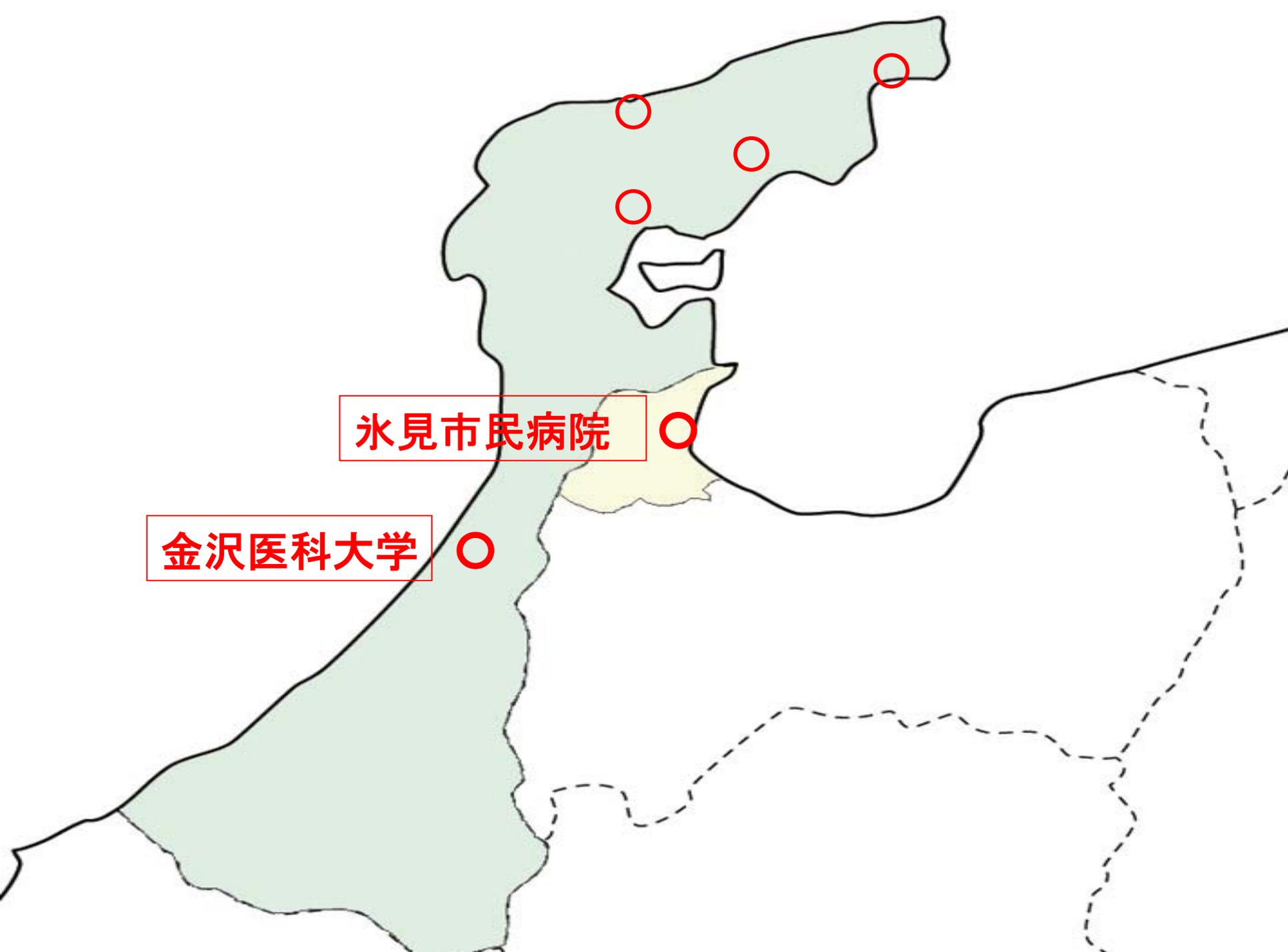
地域医療を支える新しい挑戦

氷見市民病院の指定管理者 としての構想

2008/02/05

開設準備室代表

金沢医科大学副理事長 竹越 襄



氷見市民病院

金沢医科大学

氷見市民病院 施設概要

- ・ 病床数 363床
現在稼動病床**293床**
- ・ 診療科数
20 診療科
現在 **14診療科**
- ・ へき地医療拠点病院
救急告示病院
- ・ 職員数 (6月現在)
311名
うち 医師 **34名**
うち 看護職 **196名**

- ・ 患者数 18年度
入院一日 **249.9人**
外来一日 **673.8人**
- ・ 診療収入
5,661百万円
- ・ 補助金
423百万円
- ・ 市補填金
202百万円
- ・ 収支状況
補填金を導入しても**-66百万円**

指定管理者受託までの経緯

- ・18年10月 ; 医師派遣要請
- ・19年3月 ; 市長と理事長が会談
- ・市民病院改革委員会(3回)
 - ; 市長に対して答申(5月25日)
- ・7月20日 ; 指定管理者制度による公設民営化決定
- ・市民公開討論会(6回)
- ・10月4日 ; 指定管理者に応募
- ・10月11日; 第1回選定委員会(ヒアリング)
- ・10月30日; 第3回選定委員会(内定)
- ・11月21日; 氷見市議会にて議決
- ・11月22日; 調印式
- ・12月1日 ; 市民病院内に開設準備室設置

平成20年4月から指定管理者業務開始

答申内容(概要)

慢性赤字状態の根本的な改革必要

- これ以上の税負担増を食い止めること。
- 職員の意欲や努力に応えられる経営を行なうこと。
- お役所体質の甘い体制を抜本的に改革すること。
- 全庁一体的に改革を進めること。
- 医療提供体制の選択と集中を行なうこと。
- 指定管理者制度を導入すること。

以上の方針により経営状況の改善を図るべきである

指定管理者制度による経営委託方式

- ① 地方自治法の改正により、2004年から制度化
- ② 公共施設の経営を民間が請負い、人事や事業運営で市長や議会から干渉を受けない。（経営権の強化）
- ③ 公共施設の合理化、効率化と市町村の財政負担の軽減が目的

今後の病院構想

- ① 市民病院としての機能と診療体制
- ② 教育病院としての位置付けと役割
- ③ 地域医療を支える大学間連携
- ④ スタッフの確保と処遇
- ⑤ 新築移転計画

① 市民病院としての機能と診療体制 (1)

■ 病床規模

- ・ 250床(急性期・亜急性期・回復期)

■ 診療科

- ・ 現20診療科を継承
- ・ 泌尿器、耳鼻咽喉科等の常勤化
- ・ 高齢医学科、総合診療科の開設

■ 政策的医療

- ・ 365日24時間救急医療
- ・ 小児救急⇒地元医師会、高岡医療圏との連携で対応
- ・ 産科医療の充実
- ・ へき地巡回診療

① 市民病院としての機能と診療体制 (2)

■ 地域連携・地域開放型病院

地域医療・福祉連携の推進の中心となる
オープンシステムの導入(登録医制)

■ 災害時対応

■ センター構想

- ・がんセンター
- ・ハートセンター
- ・生活習慣病センター
- ・健康管理センター(住民健診)

① 市民病院としての機能と診療体制 (3)

市民参加の推進

「地域に開かれた」病院運営を目指す

■市民への医療及び情報公開

- ・へき地診療の継続
- ・院内掲示、広報誌の充実
- ・市民公開講座の開講
- ・健康相談窓口の設置

■病院運営への市民参加

- ・ボランティアの積極的な導入
- ・市民、患者の意見を聞き、病院運営に反映

② 教育病院としての位置付けと役割

- 名称は、金沢医科大学氷見市民病院
- 医師は、金沢医科大学の教育職員
 - 教授、准教授、講師等の身分
- 教育・研修
 - 医学部学生のCCS、卒後臨床研修、看護学生の臨地実習など
- 臨床研究
 - 学会活動、臨床研究を推奨
- 高度医療の開発・導入

③ 地域医療を支える大学間連携(1)

- 一つの大学で地域医療を支えることが困難

大学・医局の壁を超えた連携協力

- 富山大、金沢大、福井大、金沢医大からなる「大学間地域医療推進協議会」(仮称)を設置し、協力して地域医療を支援

③ 地域医療を支える大学間連携(2)

○ コンセプト(氷見支援を想定した場合)

- ・金沢医大が経営を行い、富山大、金沢大、金沢医大が協議、協力して医師を派遣する。

○ 構成

- ・氷見市民病院 経営責任者、病院長
- ・協力大学の病院長
(派遣医局の責任者)
- ・氷見市及び富山県の医療行政責任者 ……等

○ 協議事項

- ・診療科別、専門領域別医師派遣の調整
- ・派遣医師の身分と処遇
- ・医師のキャリア形成支援
- ・その他

③ 地域医療を支える大学間連携(3)

経過

11月17日 第1回 3大学協議会準備会

地域医療支援に関する富山大、金沢大と
本学との協議会立ち上げに向けて協議

12月16日 第2回 3大学協議会準備会

12月17日 富山大学が協議会準備会から離脱

④ スタッフの確保と処遇(医師確保対策)

1. 現職医師の残留を要請

- ・ 富山大、金沢大の病院長、派遣医局への協力要請
- ・ 現在の病院長への協力要請
- ・ 医師への説明会、個別面談を実施

2. 大学間協議会による安定した協力体制

- ・ 年度内に機能させる

3. 本学からの派遣医師確保

- ・ 臨床各科に協力要請(科長、医局長との面談)

4. 本学卒業生(同窓会)等への協力要請

- ・ 地域医療支援事業に関する卒業生との懇談会
- ・ 氷見勤務希望者の募集、紹介・斡旋の依頼

5. 富山県の協力要請

- ・ 自治医大卒業生のローテーション

④ スタッフの確保と処遇（看護師確保対策）

- 病院の将来像、処遇、福利厚生、本学病院との人事交流、研修等の魅力をPR
 - 既在職者への働きかけ
 - 募集活動の強化 ⇒ 若手看護師の確保
 - 潜在看護師の再就業支援（研修制度）
- 氷見市奨学金制度の拡大
- 本学看護学部「氷見枠」を設ける
- 将来的には看護師養成所の設置を検討

④ スタッフの確保と処遇（現在の状況）

■ 医師

36人体制（14人残留、本学から22人派遣）

■ 看護職・医療職（現職者を優先的に採用）

- 一次募集：非組合員（管理職、臨時職）の大半から応募あり
- 二次募集：組合員を含め、現スタッフの大半から応募あり
- 不足分は一般に公募

■ 病院長に、高島茂樹 現金沢医科大学病院長

⑤ 新築移転計画(1)

* 現在氷見市では、新築移転計画を進めておりその建築場所が早々に決定される状況下にある。

(改革委員会答申書概要より)

・氷見市の需要に合った医療を提供

氷見市は、高岡二次医療圏内の他の自治体と比べて医療機関の数が少なく氷見市内では、唯一の総合病院として住民の健康を支えている。効率の良い形態とする。

・医療体制の再編

現有病床数の削減・地域に不足する診療科の整備など。

⑤ 新築移転計画 (2)

- 整備資金の適正化

1床当たりの建設費をおさえ、身の丈に合わない過度な投資は嚴重に慎むこと。(投資額が多いと賃借料負担が多くなる)

- 医療機器の整備は計画的に行なう

建設費と合わせ過度な投資とならないよう注意すること。

- 住民の高齢化に配慮した施設整備を

事前に市及び病院側において基本的な方向性を計画して進めること。

A photograph of a modern cable-stayed bridge with a prominent A-shaped pylon. The bridge spans across a body of water, with a city skyline visible in the background under a clear blue sky. The text "ご清聴ありがとうございました" is overlaid in the center of the image.

ご清聴ありがとうございました